

金沢大学

人間社会学域
学校教育学類

附属高等学校



生徒が生徒を育て、
生徒が学校を創る

自由な服装

夏服は自由服で自分らしさを表現できます。一方で冬は制服があり、女子は緑のラインとリボンのセーラー服、男子は学ランです。

このように附属高校の制服は個性を表現できる一方で、集団としての一体感も味わうことができます。



日常生活

休み時間

始業前や昼休みなど、体育館や運動場でサッカーやバレーを学年や性別の垣根を越えて楽しんでいます。

小規模校だから築くことのできる学年性別を越えた絆は様々な場面で活き、他学年との関わりをラフに持てるのが大きな魅力です。



Wi-Fi環境・情報端末

Wi-Fi環境が整っており、金沢大学IDを用いて、LMSコースなどが活用できます。

個人端末を用いて、授業中に疑問点をすぐに調べることができ、探究活動では、収集した情報を用いて多方面から探究を深めています。



SCHOLA活動とは、校外で開催されるコンペティションや取り組みに積極的に参加する活動を指します。

校外で自分の能力をより伸ばすことができ、校内ではできない経験や学びを手に入れることができます。

附属高校の生徒は勉強だけでなく、部活動やSCHOLA活動などそれぞれが様々な場所で活躍しています。

そんな仲間と共に送る高校生活はとても刺激的です。生徒同士で高め合い、互いに成長できる環境があなたを待っています。

先生・友人

人数の少ない学校だからこそ、どの先生も生徒の名前を覚えて気さくに接してくれるので、先生との会話が高校生活の楽しみの1つになります！

悩み事や勉強の相談も親身になって聞いてくれるので、とても心強いです。

附属高校では、先生方と濃密な関係を築くことができます。先生方は生徒の興味に真に向き合ってください、SCHOLA活動はもちろん、同好会設立にも快くご協力してください。そのため、実りある3年間過ごすことができます！

海外との交流

シンガポールの学生とお互いの研究を発表し合い、意見交換を行いました。

昨年に引き続き直接の交流は叶いませんでしたが、zoomなどを通じて交流を深めることができました。英語でのコミュニケーションは新鮮で楽しかったです。



平和町プロジェクト

附属高校がある平和町に私達は何か貢献できないか？そんな気持ちを受け継いできたのが平和町プロジェクト。

現在は有志で活動しており、平和町の清掃、小学生への学習支援、今年度は商店街に活気をもたらす新商品も開発しました！

校内販売の導入

探究活動の一環として、モバイルオーダー制校内販売の導入を実現させました。生徒や先生方の利便性だけでなく、平和町飲食店の活性化も配慮したものです。悪戦苦闘の末、成功した際は達成感とともに大きな自信をもてました。



菜食への理解

菜食への理解を広めるため、フリーペーパーを作成しイベントで配布やSNSで菜食向けの商品の紹介をしました。

自ら積極的に発信したことで大人の方が協力して下さり、金沢市の団体に所属するなど、活動を継続的なものにできました。



かるた同好会

普段は週2で活動し、試合だけでなく素振り練習や外周、体幹を鍛えるストレッチ等工夫を凝らしながら楽しく活動しています。

県代表に選出されるメンバーもあり、昨年の全国高校合文化祭ではベスト8に輝きました。



少人数活動

クイズ研究会

クイズ研は多分附中の中で最も人数の多い部活です。多くの仲間と楽しく使えたり使えなかったりする知識を身につけることができます。

部ではないので予算は付きませんが、部とは違い高校生クイズ等で成績を残しています。



生徒会活動

自主自律・独立自治の精神をもつ附属高校では生徒会活動が盛んです。行事は生徒のみで運営していて記念祭では時間管理や予算を生徒が決定します。

今年から冬服自由化検討委員会が設立されました。



オンラインキャリアパス

オンラインキャリアパスではzoomで先輩方のお話を聞くことができます。

先輩方が大学でどのようなことを学んだのか、そしてその後どのような道を行っていったのかを知りたい方は、志望校を決める上でとても役に立ちました。



授業

普段の授業

毎日の授業は、主に各教科の先生方によってつくられたプリントやスライドを用いて進んでいきます。

気軽に質問をしやすい明るい雰囲気です。分からない点はその授業のうちに質問をして学びを深めましょう！



ヒートアイランド現象を少しでも改善させるには？

私は一年次から二年次にかけて約1年間、金沢大学グローバルサイエンスキャンパス（GSC）に参加しました。そこでは、地球温暖化に着目した課題設定をし、「保水性・透水性舗装の温度低減効果に関する研究」を行いました。きっかけは、ヒートアイランド現象によって、都市部で生活する人々が夏に感じる暑さは厳しさを増し、熱中症が多発している問題を考えたことです。そして、路面の舗装構造の観点から、材料全体を多孔質化して保水性を改善し、内部保水の気化熱により路面温度の上昇を低減する「多孔質セメント系舗装」に着目しました。

実験では、高吸水性樹脂、廃瓦、軽量骨材を用いた多孔質モルタルを作製して、日射下にて質量や温度、表面水分の変化を計測しました。その結果、廃瓦と高吸水性樹脂を用いると連続空隙生成とセメントペーストの多孔質化により、表面温度の上昇を抑制することに効果的であることを確認しました。

研究を行う中で、自分の研究テーマを尊重した研究室とのマッチングをしていただくことにより、研究分野に直結した指導教員、学生の指導を受けることができたことは、貴重な体験となりました。その中でも、他の受講生の方との交流が印象に残っています。「保水性を持たせると道路が常に濡れ、滑りやすくなるのではないか」、「高吸水性樹脂が環境へ悪影響を及ぼす可能性はあるのか」といった自分は考えていなかったことに気付かされ、研究を改善することができました。このような活動を通して実験がうまくいかない時には試行錯誤し、その研究の有効性だけでなく、悪影響とのバランスを考慮し研究を行うことが大切だと学びました。また、研究することの面白さを再確認することができました。大学ではこの経験を活かして、研究活動にも積極的に参加していきたいです。

今泉 心寧



光る個性

個性を活かせる A-lympiad

日本数学A-lympiad。世界的課題の解決に数学の力で挑戦するコンテストだ。チーム対戦で1チームは3人ないし4人。およそ7時間をかけて、6～7個の課題に取り組む。数学が得意ではない人には敬遠されそうなものだが、実は数学の出来は関係なかったりする。（チーム全員が数学を苦手とするのは心配だが）なぜなら、私は数学が出来ないし嫌いだからだ。にも関わらず、2回も参加している。そんな数学嫌いがこのコンテストを語っていく。

まず、問題はすべて英語だ。今どき、翻訳機能に任せれば困ることはないだろうがやはり少々面食らってしまう。回答は日本語で良いので良心的。そして、回答の出来を左右するものは何といってもテーマだろう。医療・都市・スポーツ・農業というふうに、年度によってバラバラ。テーマの背景などを知らない痛い目にあうこともあるので、娑婆常があるに越したことはない。さらに、案外、回答の出来に関わってくるものが提出用の資料。PDF形式での提出が必須なのでWordを使わざるをえなくなるが、実はこれがかんがりの曲者で、それなりに使い慣れていないと最後のほうで地獄を見ることになる。ここまで読んでもらえば分かるだろうが、数学以外にも必要なスキルが結構多いのだ。単純に数学の力が求められているのではなく、数学の力を中心に様々な要素を活用することがA-lympiadには求められているのだ。私は数学が出来ないが、地理・Word・Excelにはかなりの自信がある（自惚れか？）ので、多かれ少なかれチームに貢献することはできたのではないかなと思う。（ただし、数学的な戦力にはならなかったけど）

A-lympiadはチーム対抗戦だから、私みたいな数学はさっぱりだけど他の分野が出来ます、みたいな人がいるとマイナスになるところかプラスになることの方が多いのだ（出来る分野にもよるが）。附属高校は、突出した才能を持つ人が多く集まっているので、こういったコンテストはうってつけなのだ。さらに、成績優秀チームはオランダで開催される世界大会に出場することも出来るので、参加して損をすることは何もない。むしろ、参加しないほうが損すると思った方がいい。せっかくのチャンス、思い切ってトライしてみよう。

紺谷 輝

自らを成長させることができるエコノミクス甲子園

経済学に興味があった私は、2回にわたって同級生と共に「エコノミクス甲子園」に挑戦しました。これは、経済・保険の分野からのみ出題される全国規模のクイズ大会（参加校数316、参加チーム数686）で、同じ学校の人とペアを組み出场比赛します。

1回目の挑戦では、同じ附属の先輩ペアに県大会で敗れてしまいましたが、リベンジとなる2回目の挑戦では、県大会で優勝し、全国大会への切符を手にすることができました。全国大会では、準優勝に終わってしまい、優勝賞品のニューヨーク・ボストン研修旅行の権利を手に入れ損ねましたが、それ以上に学ぶことの多い大会でした。

エコノミクス甲子園は、ただ単純に知識の多寡を競う大会ではありません。事前ラウンドにおける駆け引きや交渉にはじまり、本番での戦略やペアとの連携、勝負事にはつきものの運など、様々な要素によって勝敗が決まります。そのような中で、ペアと相談しながら戦術・戦略を組み立てていく経験は、得難く、実りあるものでした。

また、勉強を通して鍛えた“金融知力”は、自己の問題意識の精緻化に大いに役立ちました。大学進学にあたって、自分は何のために何をどのように学ぶべきか、大会を通して改めて考えることができました。

さらに、全国各地から集まった他の出場者との出会いや交流は、結果以上のものを私達にもたらしてくれました。アイスブレイクの時間に経済の話をしたり、本番中であっと驚くような鮮やかな回答を見せてもらったりと、知的な刺激を多く受けました。そして、他の出場者との交流は、大会が終わった今も様々な形で続いています。

このように、人脈が広がっていくのも課外活動の特長です。

附属高校に入学した折には、仲間と協力し、時には切磋琢磨しながら、学校の外の世界に出ることを精一杯楽しんでいただきたいと思います。未来の附属生の活躍、大いに期待しています！

岡田 拓弥

古着リメイクで環境問題にアプローチ！

本校では一年、二年で自分の興味の持った内容を研究し、論文にまとめる探求活動の時間が授業に組み込まれています。

私はその授業の中で衣服の大量廃棄について2人で研究し、取り組みました。普段からファッション、環境課題に関心があったので衣服の大量廃棄についての研究を行うことに決め、“どのようにして多くの人に大量廃棄に問題意識を持ってもらい解決行動に繋げるか”を課題としました。大衆意識を変えることは私の想像している以上に難しく、効果的なアプローチを模索しました。

人の意識を変えるためには楽しさが必要であると同時に目的を失ってはいけない。そんな難しさがありました。

模索した結果、イベントという形でより具体的な衣服の廃棄を減らすための解決行動を提案することにしました。研究を通して私は2つのことを学びました。

一つ目は自ら一歩踏み出すことの大切さです。

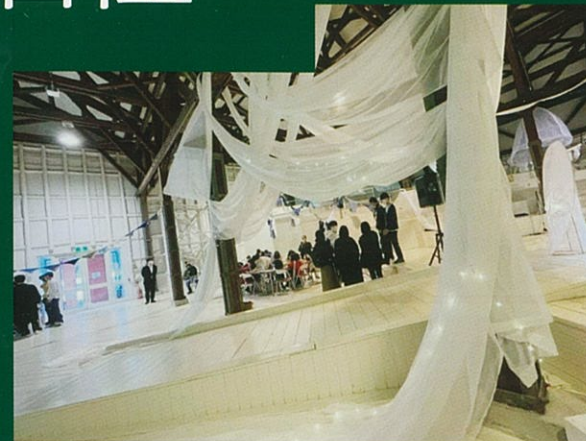
やりたい！という熱意をひたすら発信していった中で、ある方が一緒にやろう！と声を掛けてくださり、イベントを本格的に形作っていくことが出来ました。この時の一歩のおかげでイベント開催まで辿り着き、その過程で様々な経験を積む事ができた事から一歩踏み出す事の重要性を学びました。

二つ目は2人でぶつかり合う中でお互いを補い合った協調性です。

できる限りのことは全てやりたい私とうまくいく可能性を考え、取り組むことを選択し冷静に進めていく彼女とは対立することも多く、口論になることもありましたが共に乗り越えていくにつれそんな場面も2人で話し合い、互いに相手の話を聞き入れることができるようになっていきました。

この授業があることで、自分の興味のある分野を自分のやりたいたいだけ深めることができるため研究に取り組みやすく、私の高校生活をより学び多きものにしてくれました。

小坂 眞生



3年間を終えて

僕は附属高生として三年間を通して楽しく過ごせました。それは学校行事から普段の学校生活、勉強に至るまですべての出来事においてです。その中でも特に印象に残っているものの一つ、文化祭での歌舞伎について紹介したいと思います。

本校では毎年文化祭で歌舞伎を上演しており、監督や役者の他、囃子・道具・衣装メイクなどの係も生徒主体で行っています。ここでは係一人一人が責任をもって「歌舞伎」を作り上げていくことができます。僕は大道具係だったのですが、自分たちが主体となり、成功させたときの学び・感動・喜びは他の何にも代え難い財産となりました。

本校には歌舞伎以外にも多くの行事があり、また行事以外の学校生活でも生徒主体となる場面が多いです。ぜひ皆さんも本校に入学してこの財産を持って、人生を豊かにしてほしいです。

野田中学校卒 川尻 峻幹



附属高校は、先生や生徒、どちらも個性豊かな人が多いです。私も最初は驚きましたが、慣れてくると同時に様々な考え方を知り、自分の価値観を大きく変え、多角的な視点を得ることができました。互いの個性を尊重し合うことが当たり前なので、自分らしく学校生活を送ることができます。

また行事が多く、どの行事も自分たちで作ります。その過程で多くの課題にぶつかると思いますが、友人との仲を深めたり、責任をもって役割を果たすことでより成長することができます。そして、人数が少ない分、先生という立場や学年関係なく仲が親密です。皆さんが考える「青春」もできると思います。附属高校での三年間は他の高校よりも濃い経験と繋がりを得ることができるでしょう。皆さんの三年間がより実りのあるものになることを願っています！

北鳴中学校卒 西野 翠穂

附属高校に来て良かったと思える充実した3年間でした。附属の魅力として、多くの行事を生徒主体で行うことが挙げられます。私は如月祭や開校記念祭、運動会など様々な行事に運営側として携わりました。特に2年時の開校記念祭では催事部副責任者や吹奏楽部部长として動いたり、ステージでの有志発表も行ったりととても思い出に残っています。準備期間は遅くまで学校に残ったり練習をしたりと忙しく、毎日家に帰るとヘトヘトでした。けれどそんな日々も楽しく、本番はとても達成感を感じました。生徒が自ら考え、行動し、何かを作り上げるという附属ならではの青春を存分に味わえたと思います！附属高校には“附属にしかない良さ”がたくさんあります。附属でしかできないこと、附属だからできることを目一杯活用し皆さんには良い学校生活を過ごして欲しいです！

港中学校卒 寄島 凧紗



僕は3年間男子バスケットボール部に所属していました。初心者としてのスタートでしたが、部の雰囲気はとても明るく溶け込みやすかったです。附属高校の部活動はどこもアットホームで、活動も手厳しい訳では無いので初心者でも楽しめます。僕の代では県内ベスト16まで勝ち上がることができ、とても貴重な体験をさせてもらいました。

また、附属高校は生徒と共に教師も数があまり多くないため教師との繋がりが深くなり、多くの先生と仲良くなる事ができました。教師一人一人が生徒達を親身に見てくれる学校なのでとても充実した3年間を過ごすことができます。生徒同士や教師との間の垣根を超えた学生生活を送ってみたいと思ったら附属高校がオススメです。ぜひ、附属高校では勉強だけでなく部活動などにも参加して貴重な高校生活を送ってください！

金大附属中学校卒 遠藤 陽紀



私は高校生活を友達がいらない状態からスタートしました。

しかし、附属高校の生徒が暖かく受け入れてくれたおかげで、すぐに友達できました。そして、たくさんの人と友好関係を築く中で気づいたことは、附属の生徒は自分の意思や目標を持っている人が多いということです。そんな友達とお話したり、アドバイスをもらったりすることで自分の将来についてより深く多角的に考えることができました。このことは私の人生に大きな影響を与えてくれました。

高校に入る前から何か明確な将来の目標を持っている必要はないと思います。むしろ、明確な目標がないからこそ色々な人と関わってみてはどうでしょうか。

附属高校では自分の将来を考えるにあたって良い知見を与えてくれる友達をつくるのが可能だと思います。

美川中学校卒 小川 仁愛

本校は、噂通り、少人数制でありながら個性豊かな人が多く在籍しています。私はこの3年間を通して、自分の価値観が大きく変わりました。

本校では個性ある人と関わることで、価値観や考え方が違う人とどう関わるかを学べます。相手の事を良く知ること、表現力を培うことができ、他者と渡り合えるようになりました。

また、本校は多くの個性派の人で構成されているので毎日が飽きず、予想しないことばかりの連続で楽しいです。自分をさらけ出して、相手を尊重しながら過ごす日々は附属高校でしかできない体験だと思います。

ぜひ本校で過ごししながら自分をレベルアップさせてください。この高校に来て本当に良かったと思える生活を皆で作っていきましょう。

金大附属中学校卒 成田 萌衣

学校住所および地図



交通手段：JR金沢駅から北鉄バス、香林坊経由金大附属学校前・自衛隊前行き



金大附属高校
公式マスコットキャラクター
「ふぞっくん」



金沢大学人間社会学域 学校教育学類 附属高等学校

〒921-8105 石川県金沢市平和町1-1-15
TEL.076-226-2154 FAX.076-226-2150
Email:Kd-fuzokuhs@ml.kanazawa-u.ac.jp
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/kfshs/>